

令和5年度 特別国体関東ブロック大会 水球競技【戦評】

会場：埼玉県大宮公園水泳場

【2023/8/4】

この試合のプレー集計

第1代表

群馬県

8

6	—	5
1	—	1
0	—	3
1	—	4
PSO		

13 神奈川県

審判： 荻野 浩明
飯田 祥世

群馬県	24	SH数	30	神奈川県
	3	速攻数	7	
	11	ST・SB	18	
	11	SH・P誘発アシスト	15	
	24%	GK阻止率	43%	
	7	EX反則数	3	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

国体予選通過チームを決定する群馬—神奈川の頂上決戦。両チームともにセンターを軸にしたセット攻撃で勝負する同型で、どちらに軍配が上がるか。国体本番でも上位を争うチーム同士の一戦。

1P

先手を取ったのは群馬。ダブルセンター(④齊藤、⑩椎名)を置き、タイミングよく④齊藤にボールが入って先制点をマーク(7:05)。続いて、今度は⑩椎名がセンターに入ったタイミングで⑦齋藤からパスを受けて2点目をゲット(6:34)。対する神奈川も、センターで⑥仁木が退水を誘発し、右サイドから③久保田が決め、続けて④鈴木がセンターで決めて2-2の同点に(4:31)。センター同士の点の取り合いの様相を呈してきた。それだけ、両チームともにセンターへのディフェンスが甘い状況が続く、点取りの応酬合戦になってきた。群馬は④齊藤、神奈川は⑥仁木④鈴木にどんどんボールが入る状態から得点を積み重ね、群馬6-5神奈川という打ち合いで第1ピリオド終了。

2P

第1ピリオドの反省から両チームともにセンターディフェンスを固める展開が予想され、我慢の連続となることが予想された。案の定、全くゲームが動かない展開が繰り返された。双方、なかなかシュートにまで持ち込むこともできず、かつ、自陣にディフェンスを残して相手のセンター攻撃をケアするために、人数をかけた攻撃もできず、全くの我慢比べの状況。2:45にそうした拮抗状態を打破したのが群馬の1年生⑦齋藤。その時も群馬の攻撃は手詰まり状態だったが、わずかの隙を見つけて左サイドの遠目からGKを欺くループシュートを決め、群馬7-5神奈川と2点差とした。これで群馬がほっとしたのか、ゴール前ディフェンスがぼっかり空き、神奈川センター⑥仁木にきれいに決められて、1点差に戻された群馬。このセット攻撃へのディフェンスはやや緩んでしまったが、これがゲーム後半に響く形となった。このピリオドは双方1点ずつをとり合い、群馬7-6神奈川と拮抗した展開で前半を折り返した。

3P

群馬は点数的に優勢になっているものの、機動力のある⑦齋藤が攻撃で機能する展開が取れず、その分、攻撃パターンが単調に。その意味では試合は神奈川ペースと言える展開という前半であった。神奈川④鈴木が退水を誘発し、そこを再び右サイドから③久保田が決めて同点に。群馬も必死に状況打開を図ろうと、徐々に右サイドで前線に泳いだ⑦齋藤がゴール前を広くするためのサイドチェンジパスを投じたが、このパスが通らず、神奈川の5-4の速攻に。それを⑧齋藤が決めて、とうとう神奈川が逆転(3:48 群馬7-8神奈川)。その後も神奈川が優勢に試合運び、連続してペナルティファウルを誘発。しかし群馬GK①貝瀬の好守備でゴールを割らせず、群馬も必死に食らいつく。しかしピリオド終盤、群馬のオフェンス反則に乗じて神奈川得意のセンター攻撃を④鈴木が決め、群馬7-9神奈川で第3ピリオド終了。

4P

群馬の攻撃に焦りが見られ、前のピリオドからオーバータイムが続出。逆に余裕の出た神奈川が⑩木村のボールスチールからセンター⑧齋藤が決めて3点差(6:13)。群馬も必死に粘り、神奈川のシュートミスから⑥前田が豪快なシュートを決めて2点差に詰める(4:26)。ここから、群馬が全員で猛攻を掛ける形だが、有効な退水を誘発できず、神奈川ノーファウル判定でボールを奪われる場面が続く、残り時間1分。ここで、神奈川④鈴木が右サイドから決めて3点差(0:55)。これで万事休すとなり、最終的には群馬8-13神奈川で、神奈川が関東ブロック予選を制した。